灯のつどい（幼稚園・保育園向け）

＜第１部：迎え火の式＞

１　参加者入場（静，動，静の流れについて，事前に十分指導しておく）
・　燭台を丸く囲む形で座る。係は階段下に待機し，親火のろうそくだけに火をつけてもらう。

２　開会の言葉（ＢＧＭ　ＯＮ）
「ただいまから，（幼稚園・保育園名・人員）による灯のつどいを行います。」

３　「希望の火，入場」
・　親火，子火４，子火３，営火長，子火２，子火１の順に入場

４　「営火長は点火の宣言をお願いします。」
・　営火長は「点火」と宣言する。
・　親火は，燭台最上部の一本に点火する。

５　「親火は，灯に捧げる言葉をお願いします。」

※　親火の言葉
　私たち「(幼稚園・保育園名)」のお友だちは，この青少年研修センターでお泊まりをし,楽しい一日を過ごしてきました。一緒に遊んだり，ご飯を食べたりしながら，お友だちともっともっと仲良くなりました。今夜は，仲良く，楽しく，心に残るつどいにしたいと思います。そして，明日からもお友だちと仲良く元気に過ごしてほしいと思います。
令和○○年○○月○○日　　研修生代表○○○○

６　「親火は，子火に呼びかけて分火してください。」　　※　営火長にも火を分ける。

親火の呼びかけ	子火の誓いの言葉	
「丈夫な体をつくるために」　（分火）	こび１	「わたしたちは，　はやね　はやおきをして，なんでもすき　きらいなく　たべます。」
「たくさんのお友だちができるように」　（分火）	こび２	「わたしたちは，おともだちと　なかよく　あそびます。」
「素直な心をもつように」（分火）	こび３	「わたしたちは，おうちの　ひとや　せんせいの　いうことを　よく　まもります。」
「自分のことは自分でできるように」　（分火）	こび４	「わたしたちは，　なんでも　じぶんで　できるようにがんばります。」

７　「係の皆さんは，中央燭台へ点火してください。」
・　係は前に進んで上部のろうそくから点火し，終了したら一斉に定位置に戻る。

８　「営火長は迎え火の言葉をお願いします。」

※　営火長の言葉
　今夜は，（幼稚園・保育園名）のお友だちみんなが一緒に集まり，灯のつどいを開くことができることを心からうれしく思います。このつどいで，「(幼稚園・保育園名)」のお友だちみんながもっと仲良くなり，元気な（幼稚園・保育園名）の子どもになってくれることを願って，迎え火の言葉とします。

９　「それでは，周りの皆さんにも灯を分けてあげたいと思います。周りの皆さんは，ろうそくを右手に持って，静かにお立ちください。」
「係の皆さんは，周りの皆さんにも灯を分けてあげましょう。」

10　呼びかけのナレーションを入れる。

> ※　迎え火の呼びかけ
> 　一本の小さな親火から，今，〇〇本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪を作っている小さな灯。
> 　手に持っている灯を目の高さまで上げ，じっと見つめてみましょう。そして，その灯の中に，家族や友達の顔を思い浮かべてみましょう。優しく語りかけたり，ご飯を作ってくれたり，病気のあなたを看病したり励ましたりしてくれる家族の顔が浮かんできませんか。また，一緒に遊んでくれる友達の笑顔もたくさん思い出すことができることでしょう。家族のようにあなたを優しく照らしてくれるろうそくの灯の輝きを，心の中に大事にしまっておいてください。

11　「それでは，灯を左手に持ち替えてください。そっと息を吹きかけて，消してください。」
12　「これで迎え火の式を終わります。みんな，その場に腰をおろしてください。」
13　親火，子火の皆さんは退場します。

＜第２部　交歓のつどい＞

14　「静かな中で第１部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

＜第３部　送り火の式＞

・　係は燭台を囲むように定位置に着く。
15　「これから送り火の式を行います。」
16　「営火長は送り火の言葉をお願いします。」

> ※　営火長の言葉
> 　静かな迎え火の式では，ろうそくの灯を見つめながら，仲良しのお友だちや優しい家族のことを心の中で一生懸命思い出してみました。また，レクリエーションではお友だちと仲良く，楽しくゲームをして心の灯をいっそう明るいものにすることができました。（幼稚園・保育園名）のお友だちみんなが，これからも元気で，仲良く，優しいお友だちになってくれることをお祈りして送り火の言葉といたします。

17　「子火の皆さんは，一番上の一本のろうそくを残して，火を消してください。」
・　子火は下部の方から消す。
18　呼びかけのナレーションを入れる。

> ※　送り火の呼びかけ
> 　「(幼稚園・保育園名)」〇〇名のお友だちの心が一つになり，一本のろうそくの灯となって輝いているようです。今この灯を見つめている皆さんは，（幼稚園・保育園名）で，楽しく・元気よく遊んでいることでしょう。その中で，喧嘩したり，仲直りしたりしながら大きくなっているのです。
> 　また，家庭ではお家のお手伝いをしていますか。近所の方にも元気よくあいさつをしていますか。皆さんの周りの多くの方が皆さんの成長を楽しみにしているのです。皆さん一人一人が，この灯のように周りを暖かく明るく照らしながら，灯を燃やし続けてほしいと思います。

19　「それでは，親火は最後の一本を送り出してください。」
20　「これで灯のつどいのすべてを終わります。」
・　参加者は安全面に留意して退場する。

灯のつどい（小・中学校向け）

＜第１部：迎え火の式＞

1　参加者入場（静，動，静の流れについて，事前に十分指導しておく）
- 燭台を丸く囲む形で座る。係は階段下に待機し，親火のろうそくだけに火をつけてもらう。
- 納火の方法について理解する。（灯を左手に持ち替えて息をふきかけて消す。）

2　開会の言葉（ＢＧＭ　ＯＮ）
「ただいまから，（小・中学校名・人員）による灯のつどいを行います。」

3　「希望の火，入場」
- 親火，子火４，子火３，営火長，子火２，子火１の順に入場

4　「営火長は点火の宣言をお願いします。」
- 営火長は「点火」と宣言する。
- 親火は，燭台最上部の一本に点火する。

5　「親火は，灯に捧げる言葉をお願いします。」

※　親火の言葉
　私たち「(小・中学校名)」の〇〇名は，この青少年研修センターにおいて灯を囲むことになりました。一緒に活動し，生活する中で，今まで知らなかった友だちの素晴らしい姿を発見し，友情を深めるよい機会となりました。また，集団生活の厳しさ・楽しさも分かってきました。今夜は，仲良く，楽しく，心に残るつどいにしたいと思います。そして，これを機会に自らを高め，明日からの生活に役立てていきたいと思います。
令和〇〇年〇〇月〇〇日　　研修生代表〇〇〇〇

6　「親火は，子火に呼びかけて分火してください。」　　※　営火長にも火を分ける。

親火の呼びかけ	子火の誓いの言葉	
「強い心と体の持ち主になるために」　（分火）	子火１	「私たちは，心と体を鍛え，どんな困難にも負けず，最後までやり抜く強い心と体の持ち主になるよう努めます。」
「いつまでも変わらない友情のために」　（分火）	子火２	「私たちは，この素晴らしい友情をさらに深め，これからの人生を共に助け合い，励まし合っていくことを誓います。」
「豊かな心の持ち主になるために」　（分火）	子火３	「私たちは，自分のことだけでなく，他人の立場を考え，親切で思いやりのある心の持ち主になるように心がけます。」
「一日一日に全力を尽くすために」　（分火）	子火４	「私たちは，一日一日を反省し，明日に向かって全力を尽くし，悔いのない毎日を過ごすように努めます。」

7　「係の皆さんは，中央燭台へ点火してください。」
- 係は前に進んで上部のろうそくから点火し，終了したら一斉に定位置に戻る。

8　「営火長は迎え火の言葉をお願いします。」

※　営火長の言葉
　今夜は，（小・中学校名）の皆さんとこうして灯のつどいを開くことができることを心からうれしく思います。このつどいが，さらに友情を深め，団結を強めるものとなり，今後の生活の向上につながるものとし，いつまでも心のアルバムに残るものとなるよう希望して，迎え火の言葉とします。

9　「それでは，周りの皆さんにも灯を分けてあげたいと思います。周りの皆さんは，ろうそくを右手に持って，静かにお立ちください。」
「係の皆さんは，周りの皆さんにも灯を分けてあげましょう。」

10　呼びかけのナレーションを入れる。

※　迎え火の呼びかけ

親火に導かれた一本の灯から今，ここに集まった全員の手に灯が移されました。灯が一人一人の手に移されていく様は，まるで，皆さんの心が一つの大きな輪になっていくようです。

手にしている灯を目の高さまで掲げ，じっと見つめてみましょう。私たちの命もその灯と同じように，この地球上に生物が誕生してから，何億年ものはるかな昔から，一度も途絶えることなく，親から子へ，子から孫へと受け継がれてきたものです。その命のつながりの中に，私たちが存在しているのです。

私たちは，受け継がれた命の尊さを自覚して，これからもしっかり受け継いでいくために，たくさん学び，友だちと触れ合って充実した学校生活を送らなければなりません。

今，皆さんが手にしている灯が，我が身をすり減らしながら周りを暖かく，明るく照らし続けているように，私たちも弛まぬ努力によって自分自身の夢や目標を実現していきましょう。

11　「それでは，灯を左手に持ち替えてください。今の素直な気持ちを忘れることがないように，しっかりと自分の胸に納めながら，灯を静かに納火してください。」

12　「以上で迎え火の式を終わります。全員その場に腰をおろしてください。」

13　親火，子火の皆さんは退場します。

＜第２部　交歓のつどい＞

14　「静かな中で第１部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

＜第３部　送り火の式＞

・　係は燭台を囲むように定位置に着く。

15　「これから送り火の式をおこないます。」

16　「営火長は送り火の言葉をお願いします。」

※　営火長の言葉

厳粛な迎え火の式では，点された灯に自らの心を映し出し，これまでの生き方を振り返ることができました。また，第２部では，レクリエーションを通してお互いの心を開き，絆を深め，心の灯をいっそう明るいものにすることができました。この素晴らしいひと時の経験が，明日からの皆さんを支える礎となることを希望して，送り火の言葉といたします。

17　「子火の皆さんは，最上部の一本を残して，燭台の火を納火してください。」

・　子火は下部の方から消す。

18　呼びかけのナレーションを入れる。

※　送り火の呼びかけ

館内に広がった灯は，今，全員の心をまとめて中央燭台の一本の灯に返りました。先ほどまで賑やかで楽しかった時間から一変して，再び静寂が戻って参りました。お互いの出会いに感謝し，さらにふれあいを深め，明日からの生活を希望に溢れた素晴らしいものにしてください。

そして，皆さん一人一人が，一本の小さな灯のように，周りを明るく，暖かく照らしながら，それぞれの目標に向かって，心の灯を燃やし続けましょう。

19　「それでは，親火は最後の一本を送り出してください。」

20　「以上で灯のつどいのすべてを終わります。」

・　参加者は安全面に留意して退場する。

灯のつどい（高校向け）

＜第１部：迎え火の式＞

１　参加者入場（静，動，静の流れについて，事前に十分指導しておく）
- 燭台を丸く囲む形で座る。係は階段下に待機し，親火のろうそくだけに火をつけてもらう。
- 納火の方法について理解する。（灯を左手に持ち替えて息をふきかけて消す。）

２　開会の言葉（ＢＧＭ　ＯＮ）
「ただいまから，（学校・学年名・人員）による灯のつどいを行います。」

３　「希望の火，入場」
- 親火，子火４，子火３，営火長，子火２，子火１の順に入場

４　「営火長は点火の宣言をお願いします。」
- 営火長は「点火」と宣言する。
- 親火は，燭台最上部の一本に点火する。

５　「親火は，灯に捧げる言葉をお願いします。」

※　親火の言葉
　私たち「(学校・学年名)」の〇〇名は，この青少年研修センターで寝食をともにし,研修を行ってきました。共に過ごした時間の中で,級友・先生方との親交を深めることができました。この研修で学んだことは，私たちにとって，自覚を高め，新たな決意を胸にするよい機会となりました。今夜は，研修生全員（学校・学年名）で灯を囲み，心をひとつにし，思い出に残るひと時を過ごしたいと思います。そして,ここで研修したことをもとに，日々の学習や部活動，家庭での生活をより充実したものにしていきたいと思います。
令和〇〇年〇〇月〇〇日　　研修生代表〇〇〇〇

６　「親火は，子火に呼びかけて分火してください。」　　※　営火長にも火を分ける。

親火の呼びかけ	子火の誓いの言葉	
「心身の健やかな人であるために」　（分火）	子火１	「私たちは，校歌に歌われた『(校歌の一節)』の言葉を胸に，どんな苦しみにも打ち勝つたくましい体と，何事にも負けない強い心を持ち，いつも心身を鍛えます。」
「素晴らしい友情を育むために」　（分火）	子火２	「私たちは，この「(学校名)」での出会いを大切にし，互いを認め合い，高め合う友をつくり，人生を通じて変わらぬ友情を育みます。」
「充実した高校生活を送るために」　（分火）	子火３	「私たちは,『(校訓)』に示された「(学校名)」生としての在り方を希求し，日々の努力を怠らず，研鑽を積み続けます。」
「誇り高き人となるために」　（分火）	子火４	「私たちは,「(学校名)」の一員として，地域の小・中学生の手本となり，自らの可能性を追求することにより，学舎の伝統をさらに高く築き上げます。」

7　「係の皆さんは，中央燭台へ点火してください。」

・　係は前に進んで上部のろうそくから点火し，終了したら一斉に定位置に戻る。

8　「営火長は迎え火の言葉をお願いします。」

※　営火長の言葉

今夜は，（学校・学年名）の研修生が一堂に会し，灯のつどいを開くことができることを心から嬉しく思います。このつどいが，「(学校・学年名)」の一員としての団結を強め，互いの絆を確かなものとし，かけがえのない思い出のひとときとなることを祈念し，迎え火の言葉とします。

9　「それでは，周りの皆さんにも灯を分けてあげたいと思います。周りの皆さんは，ろうそくを右手に持って，静かにお立ちください。」

「係の皆さんは，周りの皆さんにも灯を分けてあげましょう。」

10　呼びかけのナレーションを入れる。

※　迎え火の呼びかけ

一本の小さな親火から，今，〇〇本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪を作っている小さな灯。

手にしている灯を目の高さまで掲げ，じっと見つめてみましょう。私たちの命もその灯と同じように，この地球上に生物が誕生してから，何億年ものはるかな昔から，一度も途絶えることなく，親から子へ，子から孫へと受け継がれてきたものです。その命の連鎖の中に，私たちが存在しているのです。

〇〇高校の生徒としての道を歩み始めた皆さんは，受け継がれた命の尊厳を守るとともに，その価値を高める努力をしなければなりません。それは，これまでの自分の生き方を振り返るとともに，高校生としてのあるべき姿を常に希求することだと考えます。また，これからの人生において，それぞれの夢や目標の実現に向けて，３年間の高校生活の中で日々努力し続ける姿勢が，自らの人生をつくっていくのです。しかし，皆さんが心の中に抱いている夢や目標を達成することは，決してたやすいことではありません。苦しく辛い時もあります。その時にこそ，自らの生き方や考え方を成長させる機会となるのです。今，皆さんが手にしている灯が，我が身をすり減らしながら，周りを暖かく，明るく照らし続けているように，弛まぬ努力をすることによって，皆さんの夢や目標を必ず実現できるものでもあると考えます。

最後に，これまで皆さんが育ててくれた御両親や地域の方々，小・中学校の先生方への感謝の気持ちを持ち続け，受け継いだかけがえのない命の灯を，皆さんが学ぶ「(学校名)」のフィールドの中で，よりよく燃やし続けることを心から願っています。

11　「それでは，灯を左手に持ち替えてください。納火してください。」

12　「以上で迎え火の式を終わります。全員その場に腰をおろしてください。」

13　親火，子火の皆さんは退場します。

＜第２部　交歓のつどい＞

14　「静かな中で第１部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

＜第３部　送り火の式＞

・　係は燭台を囲むように定位置に着く。

15　「これから送り火の式をおこないます。」

16　「営火長は送り火の言葉をお願いします。」

> ※　営火長の言葉
> 　厳粛な迎え火の式では，点された灯に自らの心を映し出し，これまでの生き方を振り返ることができました。また，第２部では，レクリエーションを通してお互いの心を開き，絆を深め，心の灯をいっそう明るいものにすることができました。この素晴らしいひと時の経験が，明日からの皆さんを支える礎となることを希望して，送り火の言葉といたします。

17　「子火の皆さんは，最上部の一本を残して，燭台の火を納火してください。」
・　子火は下部の方から消す。

18　呼びかけのナレーションを入れる。

> ※　送り火の呼びかけ
> 　静かに夜も更けてまいりました。
> 　〇〇研修に参加した「(学校・学年名)」〇〇名の皆さんの心が一つになり，一本のろうそくの灯となって輝いているようです。今この灯を見つめている皆さんには，これから「(学校名)」の一員として自信と誇りを持ち，次代を担う有用な人となるために，自らを律し，人の立場を理解して行動できる心豊かな人になってほしいと思います。
> 　また，「(学校名)」生として，社会に貢献することの重要性や地域社会の一員として果たすべき責任や役割も理解して，それぞれの夢や目標の実現に向かって，邁進してほしいと願っています。身を削りながら灯を灯し続けているろうそくのように，弛まぬ努力を続けてください。
> 　そして，皆さん一人一人が，この灯のように「(学校名)」を明るく照らす存在になることを心より祈念しています。

19　「それでは，親火は最後の一本を送り出してください。」

20　「以上で灯のつどいのすべてを終わります。」
・　参加者は安全面に留意して退場する。

灯のつどい（大学・専門学校向け）

＜第１部：迎え火の式＞

１　参加者入場（静，動，静の流れについて，事前に十分指導しておく）
- 燭台を丸く囲む形で座る。係は階段下に待機し，親火のろうそくだけに火をつけてもらう。
- 納火の方法について理解する。（灯を左手に持ち替えて息をふきかけて消す。）

２　開会の言葉（ＢＧＭ　ＯＮ）
「ただいまから，（大学・専門学校名・人員）による灯のつどいを行います。」

３　「希望の火，入場」
- 親火，子火４，子火３，営火長，子火２，子火１の順に入場

４　「営火長は点火の宣言をお願いします。」
- 営火長は「点火」と宣言する。
- 親火は，燭台最上部の一本に点火する。

５　「親火は，灯に捧げる言葉をお願いします。」

※　親火の言葉
　私たち「(大学・専門学校名)」の〇〇名は，この青少年研修センターで寝食をともにし,研修を行ってきました。共に過ごした時間の中で,親交を深めることができました。この研修で学んだことは，学生生活を歩み始めたばかりの私たちにとって，自覚を高め，新たな決意を胸にするよい機会となりました。今夜は，研修生全員（大学・専門学校名）で灯を囲み，心をひとつにし，思い出に残るひと時を過ごしたいと思います。そして,ここで研修したことをもとに，日々の学習やサークル活動，家庭での生活をより充実したものにしていきたいと思います。
令和〇〇年〇〇月〇〇日　　研修生代表〇〇〇〇

６　「親火は，子火に呼びかけて分火してください。」　　※　営火長にも火を分ける。

親火の呼びかけ	子火の誓いの言葉	
「心身の健やかで人であるために」　（分火）	子火１	「私たちは，いかなる困難にも立ち向かう強い心と体の持ち主になるよう，日々精進します。」
「素晴らしい友情を育むために」　（分火）	子火２	「私たちは，この出会いを大切にし，喜びや悲しみを共有し，共に向上できる友をつくり，人生を通じて変わらぬ友情を育みます。」
「誠実で思いやりのある人となるために」　（分火）	子火３	「私たちは，学生として，学校や地域や家庭において，いつも相手の立場を考え，真心を持って接することのできる人になります。」
「充実した学生生活を送るために」　（分火）	子火４	「私たちは，自分の生き方をしっかりと見つめ，地域社会に役立つ人間となるように心掛け，実践します。」

7　「係の皆さんは，中央燭台へ点火してください。」

・　係は前に進んで上部のろうそくから点火し，終了したら一斉に定位置に戻る。

8　「営火長は迎え火の言葉をお願いします。」

※　営火長の言葉

今夜は，（大学・専門学校名）の研修生が一堂に会し，灯のつどいを開くことができることを心から嬉しく思います。このつどいが，「(大学・専門学校名)」の一員としての団結を強め，互いの絆を確かなものとし，かけがえのない思い出のひと時となることを願い，迎え火の言葉とします。

9　「それでは，周りの皆さんにも灯を分けてあげたいと思います。周りの皆さんは，ろうそくを右手に持って，静かにお立ちください。」

「係の皆さんは，周りの皆さんにも灯を分けてあげましょう。」

10　呼びかけのナレーションを入れる。

※　迎え火の呼びかけ

一本の小さな親火から，今，〇〇本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪を作っている小さな灯。

手にしている灯を目の高さまで掲げ，じっと見つめてみましょう。私たちの命もその灯と同じように，この地球上に生物が誕生してから，何億年ものはるかな昔から，一度も途絶えることなく，親から子へ，子から孫へと受け継がれてきたものです。その命の連鎖の中に，あなた自身が存在しているのです。

学生生活を歩み始めた皆さんは，受け継がれた命の尊さを守るとともに，これから社会を形成する自覚と責任を持ち，よりよき人生を創りあげていかなければなりません。これは決してたやすいことではありません。しかし，今，皆さんが手にしている灯が，我が身をすり減らしながら周りを暖かく，明るく照らし続けているように，弛まぬ努力によって必ず実現できるものであると考えます。

先祖から受け継いだかけがえのない命の灯を，皆さんが学ぶ「(大学・専門学校名)」の中で，よりよく燃やし続けることを心から願っています。

11　「それでは，灯を左手に持ち替えてください。納火してください。」

12　「以上で迎え火の式を終わります。全員その場に腰をおろしてください。」

13　親火，子火の皆さんは退場します。

＜第２部　交歓のつどい＞

14　「静かな中で第１部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

＜第３部　送り火の式＞

・　係は燭台を囲むように定位置に着く。

15　「これから送り火の式をおこないます。」

16　「営火長は送り火の言葉をお願いします。」

※営火長の言葉
　厳粛な迎え火の式では，点火された灯に自らの心を映し出し，これまでの生き方を振り返ることができました。また，第２部では，レクリエーションを通してお互いの心を開き，絆を深め，心の灯をいっそう明るいものにすることができました。この素晴らしいひと時の経験が，明日からの皆さんを支える礎となることを希望して送り火の言葉といたします。

17　「子火の皆さんは，最上部の一本を残して，燭台の火を納火してください。」
・　子火は下部の方から消す。

18　呼びかけのナレーションを入れる。

※　送り火の呼びかけ
　静かに夜も更けてまいりました。
　〇〇研修に参加した「(大学・専門学校名)」〇〇名の皆さんの心が一つになり，一本のろうそくの灯となって輝いているようです。今，この灯を見つめている皆さんには，これから「(大学・専門学校名)」の一員として自信と誇りを持ち，次代を担う人となるために，自らを律し，相手の立場を理解し，行動できる心豊かな人になってほしいと思います。
　また，「(大学・専門学校名)」生として，社会に貢献することの重要性や地域社会の一員として果たすべき責任や役割を理解し，それぞれの夢や目標の実現に向かって，邁進してほしいと願っています。身を削りながら周りを灯し続けているろうそくのように，弛まぬ努力を続けてください。
　そして，皆さん一人一人が，この灯のように周りを暖かく，明るく照らす存在，かけがえのない存在になってくださることを心より願っています。

19　「それでは，親火は最後の一本を送り出してください。」

20　「以上で灯のつどいのすべてを終わります。」
・　参加者は安全面に留意して退場する。

灯のつどい（企業向け）

＜第１部：迎え火の式＞

１　参加者入場（静，動，静の流れについて，事前に十分指導しておく）

・　燭台を丸く囲む形で座る。係は階段下に待機し，親火のろうそくだけに火をつけてもらう。

・　納火の方法について理解する。（灯を左手に持ち替えて息をふきかけて消す。）

２　開会の言葉（ＢＧＭ　ＯＮ）

「ただいまから，（企業名・人員）による灯のつどいを行います。」

３　「希望の火，入場」

・　親火，子火４，子火３，営火長，子火２，子火１の順に入場

４　「営火長は点火の宣言をお願いします。」

・　営火長は「点火」と宣言する。

・　親火は，燭台最上部の一本に点火する。

５　「親火は，灯に捧げる言葉をお願いします。」

※　親火の言葉

私たち「(企業名)」の〇〇名は，この青少年研修センターで寝食をともにし,研修を重ねてきました。共に過ごした時間の中で,同僚との親交を深めるとともに,上司・先輩の皆さんから多くの教えを受け取ることができました。これは，社会人として,また，企業人としての人生を歩み始めたばかりの私たちにとって，自覚を高め,新たな決意を胸にするよい機会となりました。今夜は,研修生全員で灯を囲み，心をひとつにし，思い出に残るひと時を過ごしたいと思います。そして,ここで研修したことをもとに，日々の業務や生活をより充実したものにしていきたいと思います。

令和〇〇年〇〇月〇〇日　　研修生代表〇〇〇〇

６　「親火は，子火に呼びかけて分火してください。」　　※　営火長にも火を分ける。

親火の呼びかけ	子火の誓いの言葉	
「心身の健やかな人であるために」　（分火）	子火１	「私たちは，いかなる困難にも立ち向かう強い心と体の持ち主となるよう,日々精進することを誓います。」
「強い絆と友情のために」（分火）	子火２	「私たちは，この「(企業名)」での出会いを大切にし，互いを認め合い,高め合いながら，共に人生を歩む素晴らしき仲間となることを誓います。」
「社会に貢献できる人となるために」　（分火）	子火３	「私たちは，社会を構成する一員として，地域社会に役立つ人間となるように心がけ,実践することを誓います。」
「職責を完遂できる人となるために」　（分火）	子火４	「私たちは,『(社訓）等』を胸に，企業人として日々の努力を怠らず,研鑽を重ね続けることを誓います。」

７　「係の皆さんは，中央燭台へ点火してください。」

・　係は前に進んで上部のろうそくから点火し，終了したら一斉に定位置に戻る。

8　「営火長は迎え火の言葉をお願いします。」

※　営火長の言葉
　今夜は，（企業名）の研修生が一堂に会し，灯のつどいを開くことができることを心から嬉しく思います。このつどいが，「(企業名)」の社員としての団結を強め，互いの絆を確かなものとし，かけがえのない思い出のひと時となることを願い，迎え火の言葉とします。

9　「それでは，周りの皆さんにも灯を分けてあげたいと思います。周りの皆さんは，ろうそくを右手に持って，静かにお立ちください。」
「係の皆さんは，周りの皆さんにも灯を分けてあげましょう。」

10　呼びかけのナレーションを入れる。

※　迎え火の呼びかけ
　一本の小さな親火から，全員の手に灯が移されました。
　手にしている灯を目の高さまで掲げ，じっと見つめてみましょう。私たちの命もその灯と同じように，この地球上に生物が誕生してから，何億年ものはるかな昔から，一度も途絶えることなく，親から子へ，子から孫へと受け継がれてきたものです。その命の連鎖の中に，あなた自身が存在しているのです。
　学び舎を巣立ち,これまで慈しみ,育ててくださった親の庇護の下を離れて自立への道を歩み始めた皆さんは，受け継がれた命の尊厳を守るとともに，その価値を高める努力をしなければなりません。それは，これまでの自分の生き方を振り返るとともに，社会人として,あるいは企業人としてのあるべき姿を常に希求し，理想とする姿を追い求めることでもあると考えます。これは，けっしてたやすいことではありません。
　しかし，今，皆さんが手にしている灯が，我が身をすり減らしながら，周りを暖かく，明るく照らし続けているように,弛まぬ努力をすることによって必ず実現できるものでもあるとも考えます。
　皆さんがこれまで受け継いだかけがえのない命の灯を，社会の中で，また会社の中でよりよく燃やし続けることを，心から願っています。

11　「それでは，灯を左手に持ち替えてください。納火してください。」

12　「以上で迎え火の式を終わります。全員その場に腰をおろしてください。」
13　親火，子火の皆さんは退場します。

＜第２部　交歓のつどい＞

14　「静かな中で第１部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

＜第３部　送り火の式＞

・　係は燭台を囲むように定位置に着く。

15　「これから送り火の式を行います。」

16　「営火長は送り火の言葉をお願いします。」

※　営火長の言葉
　厳粛な迎え火の式では，点された灯に自らの心を映し出し，これまでの生き方を振り返ることができました。また，第２部では，レクリエーションを通してお互いの心を開き，絆を深め，心の灯をいっそう明るいものにすることができました。この素晴らしいひと時の経験が，明日からの皆さんを支える礎となることを希望して，送り火の言葉といたします。

17　「子火の皆さんは，最上部の一本を残して，燭台の火を納火してください。」
・　子火は下部の方から消す。

18　呼びかけのナレーションを入れる。

※送り火の呼びかけ
　静かに夜も更けてまいりました。
　新入社員研修に参加した「(企業名)」〇〇名の皆さんの心が一つになり，一本のろうそくの灯となって輝いているようです。今この灯を見つめている皆さんには，これからの社会を構成する一員としてはもちろんのこと,次の時代を創る有用な人材となるために，自らを律することの大切さを忘れずにいてほしいと思います。
　また,「(企業名)」の職務を通して社会に貢献することの重要性や地域社会の一員として果たすべき責任，安息の場としての家庭を育むことの大切さにも思いを馳せ，それぞれの目標の実現に向かって邁進してほしいと願っています。
　「幸運の女神は，よりよき準備をした者にのみ手を差し伸べる」という言葉があります。身を削りながら灯を灯し続けているろうそくのように，弛まぬ努力を続けてください。
　そして，皆さん一人一人が，この灯のように社会の一隅を照らす存在，かけがえのない存在になってくださることを心より祈念しています。

19　「それでは，親火は最後の一本を送り出してください。」

20　「以上で灯のつどいのすべてを終わります。」
・　参加者は安全面に留意して退場する。